

■河竹黙阿弥(2代河竹新七) 歌舞伎作者。幕末に第一人者となり、維新後も新時代に対応、作者道一筋に、多くの傑作。

かわたけもくあみ

伊能測量終・1816＝ 江戸日本橋に湯屋の株の売買業越前屋勘兵衛の長男として生まれた。

水野忠成老中1818＝ 2歳：

異国船打払令1825＝ 9歳：

シ一本追放・1829＝13歳：柳橋で遊興中を見つかつて勘当され、

鼠小僧磔・・・1832＝16歳：貸本屋の手代となって乱読多読、芝居界にも縁を生じた通人粋客と交わって狂歌、雑俳、三題噺、絵合せ、茶番などに才を発揮、芳々と号して点者もつとめた。後年の作の趣向の妙や世相人心の機微の把握と描写、音感に富むせりふの味などは、この遊蕩時代のたまものである。

高島砲術・・・1834＝18歳：父が死去。父に代わって、黙阿弥を可愛がっていた姉が家を支え、後見してくれた。

滑稽+人情本 1835＝19歳：5世鶴屋南北に入門し、勝彦蔵を名のった。以後、病氣や家庭の事情で何度か劇界を離れたが、

・・・1836＝20歳：姉も急逝し、悲しみの中で、自覚も高まり、

大塩平八郎乱1837＝21歳：

約20年間の習作時代の間に師の口述筆記、台本筆写、書抜作り、道具帳や番付・絵看板の制作助手、柝の打ち方や稽古のつけ方、舞台監督など座付作者としての基礎修業をおさめ、補綴・脚色などの習作で作劇術を学んだ。独習だが画才もあり看板下絵が得意だった。勤勉で記憶力がよく、

勸進帳初演・1840＝24歳：台本なしで「勸進帳」の後見をつとめて7世市川團十郎にほめられたのが出世の糸口となり、

天保改革始・1841＝25歳：江戸河原崎座へ出勤、柴(後に斯波)晋輔と改め、家督も弟にゆずって、

順天堂始・・・1843＝27歳：*立作者となって、2世河竹新七を襲名。その後は50余年一筋に作者道を貫く。

天保の改革のため江戸三座が浅草猿若町に移転したので、住居を芝から浅草寺子院の正智院境内に移す。

阿部正弘首座1845＝29歳：

孝明天皇・・・1846＝30歳：結婚。

北斎没・・・1849＝33歳：母が死去。

万次郎帰国・1852＝36歳：_師の南北も没し、いよいよ一本立ち。

ペリー来航・1853＝37歳：

開国開港・・・1854＝38歳：*「都鳥廓白浪」を書いて4世市川小団次に認められ、名実ともに劇界の第一人者となる。

以後の10余年間は、名人といわれた幕末の代表的役者4世市川小団次と組み、生世話狂言とくに白浪物に本領を発揮、地位を確立した時代である。

桜田門外変・1860＝44歳：_「三人吉三廓初買」などの傑作を次々と書く。

遣欧使節・・・1861＝45歳：

薩長同盟・・・1866＝50歳：_小団次の死去後は、旧来の世話物のほか新時代に順応すべく、活歴劇(活歴物)、散切物、松羽目物の舞踊劇などに新境地を開く時代となり、

明治維新・・・1868＝52歳：_明治に入ってもその地位は変わらず、

初の日刊新聞1870＝54歳：

明治6年政変 1873＝57歳：

琉球処分・・・1879＝63歳：

明治14年政変1881＝65歳：*代表作「河内山」の後、官憲・学者による急進的な演劇改良運動の重圧を避くべく、"腸の無き愚かさに直な道知らで幾年横に這ふ蟹"という狂歌をのこし、散切物「島衛月白浪」を一世一代として引退を声明、黙阿弥と改めた。その真意は晩年の手記によると"又出勤する事もあらば元のもくあみとならんとの心"。

_引退後の10余年間も、すぐれた後継作者なく"スケ"として書きつづけ、作品は360種にのぼる。

国民之友始・1887＝71歳：本所南二葉町に移住。

初の対等条約1888＝72歳：

帝国憲法発布1889＝73歳：

大本教・・・1892＝76歳：再度の、*そして正式の引退。死を予感し、長女糸に家督を譲るなど、その準備をした後、

郡司千島探検1893＝77歳：脳溢血で、_没した。

身を固めて後は、真面目一方であったが、犬、猫、さらには鼠までと動物を可愛がったという。

渡辺保「黙阿弥の明治維新」、吉川弘文館人物叢書、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、日本の古典名著、